



ホースシュー島

2014年更新

南緯67度49分、西経67度18分

主な特徴

- ・ホースシュー島の歴史的な英国基地“Y”

概要

地形：

ホースシュー島は、マルグリット湾のBourgeoisフィヨルドにある岩質の小さな島である。

動物相：

繁殖が確認されている種：ミナミオオセグロカモメ(Larus dominicanus)、チャイロオオトウゾクカモメ (Catharacta Antarctica lonnbergi) (時折)

植物相：

ホースシュー島からは、地衣類29種とコケ類15種が報告されている。

その他：

英国基地“Y”は、第63南極史跡記念物に指定されている。Sally岬を見渡す島の北西先端の小さな半島にある。設備の整った英国の科学基地で、1950年代後半の姿をほぼ留めているものとして注目に値し、当時の生活と科学を収めたタイムカプセルを提供している。1955年3月から1960年8月まで継続して使用された後、1969年に4か月間再使用された。基地の建物に加えて、気球倉庫、子犬の檻、緊急用倉庫、2艘の平底ボート及びウィンチもある。数マイル離れた所にあるBlaiklockという避難小屋は、基地の一部とみなされている。

訪問者の影響

既知の影響：

なし。

潜在的影響：

火災。小規模な燃料漏れ。

上陸要件

船舶*：

乗客500名以下の船舶（次の「訪問者」の項も参照）*。一度に1隻の船舶に限る。

1日当たり（午前0時から翌午前0時まで）2隻以内で、そのうち乗客200名を超える船舶は1隻までとする。

* ここでいう船舶とは、12人以上の乗客を運搬する船に限る。



訪問者：

探検ガイドとリーダーを除き、常に上陸は一度に100名以内。基地の内部への訪問者数は、常に12名以内に限る**。

基地"Y"は、英国により第63南極史跡記念物に提案された。小屋への訪問は、締約国から事前に許可を得た場合のみ可能である。訪問に先立ち、本地区を管理する締約国に通知するべきである。

訪問者用地区

上陸地区：

小屋の南側にあるSally岬が望ましい。

閉鎖地区：

訪問者は、ロフトあるいは補助小屋、またはその他の建物は立入りするべきではない。

ガイド付き徒歩地区：

なし。

自由散策地区：

訪問者は、細かい指示を受けた上で、または自由散策することができる。

訪問者の行動規範

上陸後の行動：

小屋での宿泊は認められていない。小屋への訪問は、教育目的に限られ、緊急時を除き、他のいかなる目的にも利用しないこと。

小屋の窓は、すべて固定よろい戸でふさいであるので、室内を見るには懐中電灯が必要である。

工作物に触れたり、持ち出したりしないこと。椅子などの家具に座ったり、テーブルや作業台に物を置いたりしないこと。

建物に入る前に、長靴や上着から雪や砂を払うこと。全てのリュックサック及び大きな鞆は、小屋の外に置いておくこと。

訪問後、砂利、泥及び雪を掃いておくこと。

小屋の中及びその周囲での喫煙並びにろうそく、マッチ及びコンロの使用は、禁止されている。

訪問時には、基地内にある訪問者簿に記録を残すこと。探検リーダーは、基地"Y"の状態に関する報告書を英国のAntarctic Heritage Trustに提出すること。

訪問者は、出発の際、基地を安全かつ確実に閉鎖して立ち去ること。

屋根へのあらゆる損傷については、British Antarctic Surveyに報告すること。

** 訪問者は自らの責任で基地を訪問すること。英国政府機関は、個人の怪我や財産の損傷に対して責任を負わないものとする。

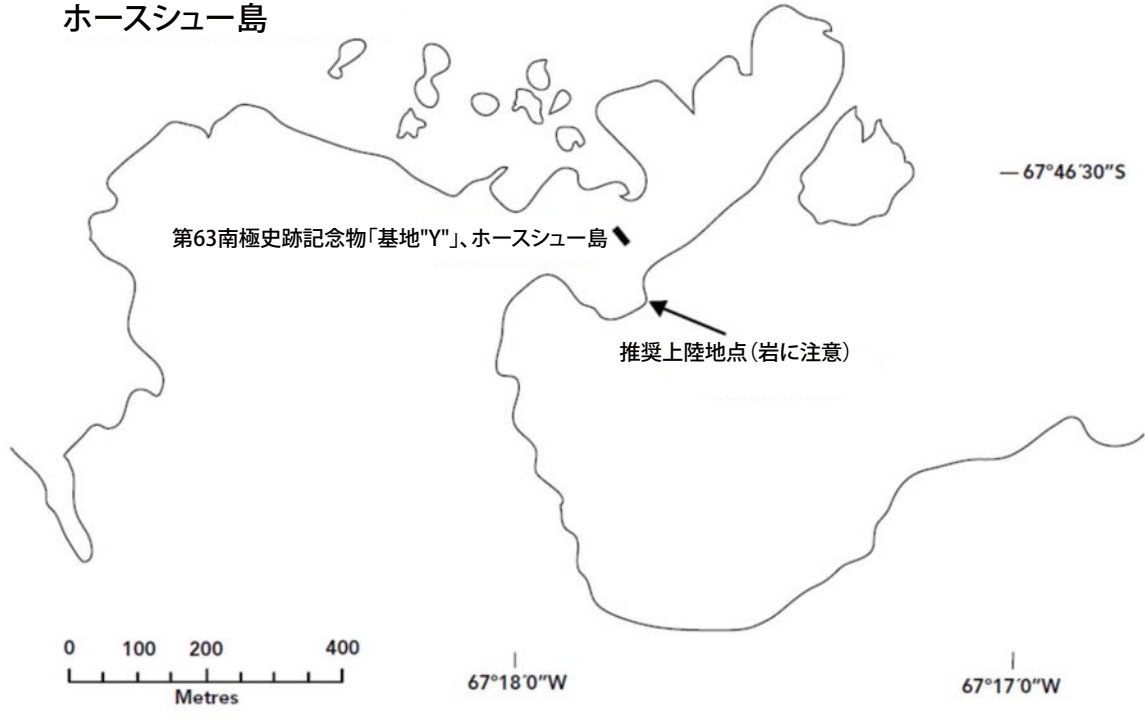
注意事項：

不安定なアスベストを含む物質がロフトにあることが知られている。建物内の外壁には、この他にアスベストを含む物質もある。

ボートの操縦者はSally岬の入り口の岩に注意すること。

上陸地点の岩場は、濡れていると滑りやすい。





ANTARCTIC TREATY

visitor site guide



北東部から見た小屋と手前にある犬小屋



岸辺の平底ボート

ANTARCTIC TREATY

visitor site guide



当時のままの消火器



そり用の走行距離メーターを作るために使用した自転車の車輪